

Daily Report (号外)

～NYダウ過去4番目の下げ幅に～

概要

11日のNYダウは、新型コロナウイルス感染「第2波」と景気回復の遅れに対する懸念が強まったことから、前日比▲1,861ドル安の25,128ドルと大幅下落となり、過去4番目の下げ幅となりました。

新型コロナウイルスによる経済への悪影響が続く中、市場では3月安値からの株価上昇ピッチが早いことへの警戒感が広がっていました。そのような中、10日に開かれた連邦公開市場委員会(FOMC)で2022年まで金利を据え置くことなど、異例の経済支援を継続することが改めて示されました。FOMC出席メンバーの経済見通しでは2021年末の失業率は6.5%と、3～4%台だったコロナショック前の水準に比べて高く、経済の先行きに対して厳しい見方となりました。

また、パウエルFRB議長は会見で「経済回復への道のりが長いことを素直に認める」と語るなど、雇用回復が長期化する見通しを示しました。さらには、テキサス州における1日あたりの新規感染者数が10日に過去最大となったほか、その他の南部や西部の州でも感染者数が再び増加していることから、感染拡大第2波の懸念が高まっています。一方、米財務長官は新型コロナウイルスの感染拡大第2波が起きたとしても、米経済を再び閉鎖すべきでないとの見方を示しました。

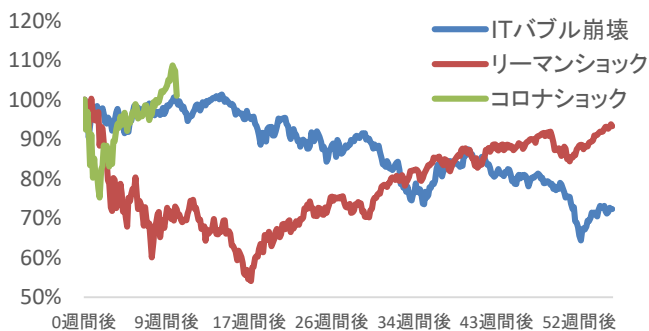
市場の反応

11日の米国株式市場は大幅下落しました。NYダウ平均は、新型コロナウイルスの感染第2波懸念の高まりや、パウエルFRB議長が会見で示した厳しい経済見通しから景気回復の遅れに対する懸念が強まり、投資家心理が悪化し一斉にリスク回避に動いたことから、前日比1,861ドル82セント(▲6.90%)安の25,128ドル17セントで終わりました。下げ幅は一時1,900ドルを超え、終値でも過去4番目の大きさの下げ幅となりました。その他主要指数も大幅下落し、S&P500は▲5.89%、NASDAQは▲5.27%となりました。欧州株式市場も新型コロナウイルスの感染第2波を懸念して投資家心理が悪化したことから、全面安となり、DAXは前日比▲4.47%、FTSE100は同▲3.99%、STOXX欧州600指数も同▲4.10%と下落しました。

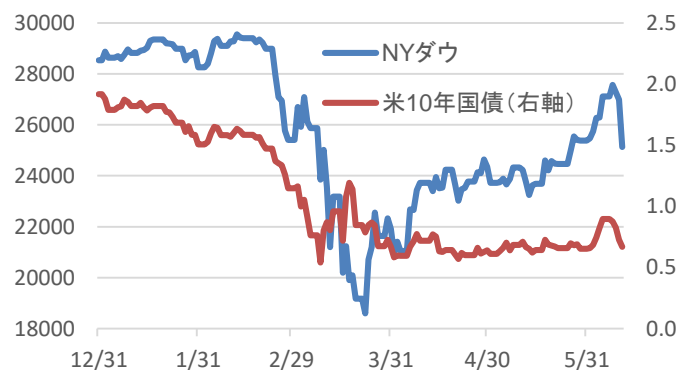
米国債券市場は、投資家のリスク回避姿勢の高まりから買いが優勢となり、米国債利回りは低下し、10年金利は0.67%(前日比▲0.06%)で引けました。欧州債券市場も国債利回りは低下し、独10年国債利回りは▲0.41%(前日比▲0.08%)、英10年国債利回りは0.20%(同▲0.07%)で引けました。

外国為替市場では、ドルと逃避先通貨の需要が高まっていますが、ドル円は前日比25銭円高・ドル安の1ドル=106円85～95銭で取引を終えました。

S&P500の推移



NYダウ・米10年国債の推移



(期間) (左グラフ) ITバブル崩壊:00/4/11～04/8/20、リーマンショック:08/9/12～13/1/22、コロナショック:20/3/6～20/6/11、(右グラフ) 19/12/31～20/6/10、(出所) Bloomberg

今後の見通し

米国株価急落の背景として、FRBの景気弱気見通しやテキサス州などでの感染拡大第2波への懸念浮上、加えて5月分雇用統計の改善などを受け、景気回復への期待が過度に先行したことや株価も急ピッチで上昇していたことの反動と考えています。

当面株価は値動きの荒い展開が予想されるものの、FRBは低金利政策へのコミットに加えさらに追加政策も検討中であること、民主党が主導する下院では5月15日に3兆ドル規模の経済対策案を可決済みであること、また6月10日にはムニューシン財務長官が間違いなく追加対策が必要と言明するなど、超党派での大規模な追加経済対策が期待できることから2番底は回避できる可能性が高いと思われれます。

夏場までを見通した場合、政策期待やワクチン・治療薬の開発進展といった好材料と、感染拡大第2波への懸念や大統領選など政治リスクなどの悪材料が綱引きする状況を想定していますが、今後発表されてくる経済活動再開後の経済データが予想より改善していない場合の下振れリスクには注意が必要と考えています。